

Title	佐藤一郎教授年譜・ 著作目録
Sub Title	Biographical Resume List of Publication
Author	
Publisher	慶應義塾大学藝文学会
Publication year	1994
Jtitle	藝文研究 (The geibun-kenkyu : journal of arts and letters). Vol.65, (1994. 3) ,p.215- 230
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	檜谷昭彦, 佐藤一郎両教授退任記念論文集
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-00650001-0215">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-00650001-0215</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

佐藤一郎教授年譜・著作目録



年 譜

昭和三年（一九二八）零歳

五月二十七日、父佐藤和一郎・母なつゑの長男として東京西郊の巢鴨町に生まる。

昭和四年（一九二九）一歳

現、世田谷区代沢一丁目（当時、下代田）へ転居。

昭和七年（一九三二）四歳

桜幼稚園入園。園長はのちの自民党幹事長廣川弘禪氏。もと曹洞宗寺院であつた。

昭和十年（一九三五）七歳

桜幼稚園卒園

目黒区立駒場小学校入学。

昭和十六年（一九四一）十三歳

目黒区立駒場小学校卒業。

東京府立第十中学（現、都立西高）入学。

昭和二十年（一九四五）十七歳

東京府立第十中学卒業。

東洋大学文学部予科入学。

中国語を永島栄一郎先生に習う。

昭和二十三年（一九四八）二十歳

東洋大学文学部予科修了

慶応義塾大学文学部入学。奥野信太郎先生に師事す。藤田祐賢・村松暎両先輩も中国文学専攻に在学中であった。

昭和二十五年（一九五〇）二十二歳

慶応義塾大学文学部卒業。旧制の最後の繰上げ卒業であった。

昭和二十六年（一九五一）二十三歳

二月、慶応義塾図書館勤務。

昭和二十八年（一九五三）二十五歳

四月、父病死す。

昭和二十九年（一九五四）二十六歳

十月、雑誌『北斗』創刊。同人は伊藤敬一・今村與志雄・小野田耕三郎・高畠穰・立間祥介・宇田礼・松井博光・阿部幸夫・秋元一郎・佐藤一郎・君島久子・檜山久雄である。のちに竹内実・奥平卓・川本邦衛が同人に加わった。

昭和三十四年（一九五九）三十一歳

三月、関口育子と結婚。

七月、『北斗』通巻十九号を刊行し、終刊。

昭和三十七年（一九六二）三十四歳

四月、慶応義塾大学文学部非常勤講師。

昭和三十八年（一九六三）三十五歳

四月、慶応義塾大学文学部助手。

昭和三十九年（一九六四）三十六歳

四月、慶応義塾大学文学部専任講師。

国学院大学文学部非常勤講師（現在に至る）

昭和四十年（一九六五）三十七歳

十月、長女文誕生。

昭和四十一年（一九六六）三十八歳

十一月、川崎市多摩区西三田へ転居。

昭和四十三年（一九六八）四十歳

一月、奥野先生急逝。

四月、慶応義塾大学文学部助教授

昭和四十五年（一九七〇）四十二歳

二月、妻育子病死。

昭和四十六年（一九七一）四十三歳

十一月、伊藤千江子と結婚。

昭和四十八年（一九七三）四十五歳

四月、慶応義塾大学文学部教授

昭和四十九年（一九七四）四十六歳

八月、長男元誕生。

昭和五十二年（一九七七）四十九歳

三月、横浜市緑区美しが丘へ転居。

昭和五十六年（一九八一）五十三歳

四月、大正大学文学部非常勤講師（昭和五十七年度まで）

国学院大学大学院非常勤講師を兼ねる。

（現在に至る）

昭和六十一年（一九八六）五十八歳

四月、東洋大学大学院講師（現在に至る）

平成二年（一九九〇）六十二歳

三月、文学博士（慶応義塾大学）

平成五年（一九九三）六十五歳

十二月。母永眠、享年九十一。

平成六年（一九九四）六十六歳

三月三十一日、慶応義塾大学を定年退職。

四月一日、大正大学文学部教授に就任。慶応義塾大学大学院講師兼務。



## 著作目録

### 一、著書（単行本）

『唐宋八家文』（中国古典新書） 明德出版社 昭和43年9月

『中国文学史』初版 慶応通信 昭和46年4月

『中国文学史』改訂版 慶応通信 昭和60年3月

『中国文学史』近世後期・現代』下（中国文化全書） 高文堂出版社 昭和58年2月

『中国文章論』 研文出版 昭和63年5月

『江南の士大夫文学』近代文藝社 平成6年5月刊

### 二、物語（単行本）

『水滸伝』（中国文学名作全集） 盛光社 昭和42年3月

『西遊記』（中国文学名作全集） 盛光社 昭和42年3月

『水滸伝』 盛光社 昭和48年10月

『西遊記』 すばる書房 昭和53年5月

### 三、共編著

- 『中国文学小辞典』 高文堂出版社 昭和47年4月  
 『中国文学概論』 高文堂出版社 昭和61年3月  
 『中国小説小事典』 高文堂出版社 平成2年3月  
 『漢字に強くなる本』 光文書院 昭和53年9月  
 『続・漢字に強くなる本』 光文書院 昭和56年10月

#### 四、論文・評論（雑文・短文・書評は除く）

- 曹禺の「雷雨」について 『三田文学』41巻2号 昭和26年6月  
 骸骨の梯子―「日出」― 『三田文学』41巻4号 昭和26年8月  
 古陶と黄土の子―「北京人」― 『三田文学』41巻5号 昭和26年9月  
 母を生む国―「蛻変」― 『三田文学』42巻2号 昭和27年3月  
 近代への実験―「原野」― 『三田文学』42巻8号 昭和27年10月  
 郭沫若論序説 『三田文学』43巻8号 昭和28年10月  
 中国における近代ロマンの出発点『北斗』1巻2号 昭和29年12月  
 芥川龍之介と中国 『北斗』2巻3号 昭和31年5月  
 曾国藩について 『芸文研究』6号 昭和31年12月  
 清末文学の周辺 『北斗』3巻1号 昭和32年9月

曾国藩と俗文学 『芸文研究』 7号 昭和32年12月

梁啓超とその文学 『北斗』 4巻3号 昭和33年〔4月〕

方苞の散文 『芸文研究』 12号 昭和36年7月

戴名世・方苞の交遊より見たる桐城派古文の成立 『芸文研究』 16号 昭和38年10月

帰有光の系譜 『芸文研究』 20号 昭和40年11月

清の詩文 『国学院雑誌』 67巻9号 昭和41年9月

魯迅雑文中のロマン・ロラン 『芸文研究』 23号 昭和42年2月

〔『ロマン・ロラン研究会報』 103号に転載〕

漢文教師的解釈「毛沢東語録」 『現代の眼』 8巻2号 昭和42年2月

梁啓超における「文学」 『芸文研究』 27号 昭和44年3月

袁枚における詩文の位置 『国学院大学漢文学会々報』 17号 昭和47年3月

二つの路線の熱い照應 『国文学』 19巻8号 昭和49年7月

啓蒙家・宣伝家としての梁啓超とその文学 『現代中国』 35号 昭和55年3月

長崎遠望―頼山陽のこと― 『北葉』 25号 昭和56年9月

孔子の人間学 『プレジデント』 20巻3号 昭和57年3月

〔『孔子・日本人にとって『論語』とはなにか』プレジデント社 平成元年12月刊に転載〕

明清における王陽明詩文の評価 『国学院雑誌』 86巻11号 昭和60年11月

同郷人帰有光と王世貞 『国学院大学漢文学会々報』 31号 昭和61年2月

梁啓超における桐城派 『史学』 56巻3号 昭和61年11月

江戸・明治期における桐城派 『芸文研究』 54号 平成元年3月

劉大櫟の評価をめぐる 『芸文研究』 58号 平成2年11月

方舟の経義と清代古文 『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』 22号 平成2年12月

桐城派の再検討 『国学院中国学会報』 38号 平成4年10月

同時代人姚鼐と戴震・段玉裁 『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』 24号 平成4年12月

## 五、中国文論文

李白对李攀竜王世貞及荻生徂徠の影響 夏 文宝訳

〔『中日李白研究論文集』所収 中国展望出版社 一九八六年十月〕

関于桐城派の幾個問題

〔『桐城派研究論文選』所収 黄山書社 一九八六年十一月〕

姚鼐 呉 鴻春訳

〔顧 易生編『十大散文家』所収 上海古籍出版社 一九九〇年七月 台湾世界文物出版社版 一九九二年一月刊行〕

帰有光の譜系 楊 松涛訳

〔錢仲聯主編『明清詩文研究資料輯叢』所収 吉林文史出版社 一九九〇年八月〕

## 六、史 伝

- 竜の精（『新十八史略物語』 1 『王道霸道の巻』所収）河出書房 昭和31年10月
- 邯鄲の攻防（『新十八史略物語』 2 『戦国群雄の巻』所収）河出書房 昭和31年11月
- 名將と文豪（『新十八史略物語』 3 『名將文豪の巻』所収）河出書房 昭和31年12月
- 班超物語（『新十八史略物語』 4 『秋風五丈原の巻』所収）河出書房 昭和32年1月
- 甘露の変（『新十八史略物語』 5 『長恨歌の巻』所収）河出書房社 昭和32年8月
- 詩文と哲学（『新十八史略物語』 6 『草原の英雄の巻』所収）河出書房新社 昭和32年8月
- 棘門に死す・胡風啾啾（『新十八史略物語』 7 『興亡悲歌の巻』所収）河出書房新社 昭和32年10月
- 桑をつむ女（『新十八史略物語』 8 『傾国艷色の巻』所収）河出書房新社 昭和32年11月
- 永樂帝（『新十八史略物語』 10 『疾風八幡船の巻』所収）河出書房新社 昭和33年1月
- 明暗絵巻（『新十八史略物語』 11 『南海殘夢の巻』所収）河出書房新社 昭和33年2月
- 清初の三哲（『新十八史略物語』 12 『紫雲紅樓の巻』所収）河出書房新社 昭和33年3月
- 曾國藩と李鴻章（『新十八史略物語』 13 『竜旗孤影の巻』所収）河出書房新社 昭和33年4月
- 鄭衆と梁冀（『人物中国の歴史』 5 『三国志の世界』所収）集英社 昭和56年7月
- 楚の莊王（『人物中国の歴史』 1 『大黄河の夜明け』所収）集英社 昭和56年9月
- 宋の太祖（『人物中国の歴史』 7 『中国のルネサンス』所収）集英社 昭和56年12月

宦官 『歴史読本』 27巻4号 昭和57年3月

『中国の名將と名参謀』 新人物往來社 平成3年12月刊に転載)

黄巾の乱 『歴史読本』 29巻1号 昭和59年1月

『三国志の軍師諸葛孔明』 新人物往來社 平成4年2月所収)

三国志の梟雄たち 『歴史読本』 30巻1号 昭和60年1月

# 七、事典・年鑑・研究書・評論集所収論文(事典は大項目のみ採録)

郭沫若・曹禺(竹内好・岡崎俊夫編『現代中国の作家たち』所収) 和光社 昭和29年7月

民国以後の文芸(玉川百科大事典』15『日本東洋文芸』所収) 誠文堂新光社 昭和35年9月

文芸(アジア政経学会編『中国政治経済綜覧』所収) 昭和39年1月

近世小説の研究と資料(大阪市立大学中国文学研究室編『中国の八大小説』所収) 平凡社 昭和40年6月

古文(『中国文化叢書』4『文学概論』所収) 大修館 昭和42年9月

水滸伝・古文・帰有光・方苞・郭沫若(T・B・Sブリタニカ』所収) 昭和47年5月〜49年11月

『唐宋八家文読本』の成立(『漢文研究シリーズ』6『唐宋八家文』所収) 尚学図書 昭和51年5月

文章(『中国文学概論』所収) 高文堂 昭和61年3月

梁啓超における湖南とくに蔡鐸との関係をめぐって)

(山田辰雄編『近代中国人物研究』慶應義塾大学地域研究センター所収) 昭和63年3月

## 八、高校教科書

『新版漢文』上・下 三省堂 昭和48年3月

金谷・青木・小野・内藤・松浦と共編

『新版古典』三省堂 昭和48年3月

金谷治他と共編

『李白と杜甫と唐詩の心』三省堂 昭和49年3月

金谷治他と共編

『孔子と論語』三省堂 昭和49年3月

金谷治他と共編

## 九、新聞・放送

駱賓基「山国の物産」・艾蕪「おいたちの記」(世界のベストセラー14) 読売新聞 昭和41年5月1日

『読売新聞』「海外文学だより」欄 昭和41年7月～47年3月まで担当

浩然「栄光への道」(世界のベスト・セラー44) 読売新聞 昭和47年10月8日

『世界日報』書評欄 昭和58年12月～63年5月まで担当

NHK高校国語II 昭和58年度NHKサービスセンター 昭和58年4月

伊藤博之・古林尚と共著

NHK高校国語II 昭和五十九年度NHKサービスセンター 昭和59年4月

伊藤博之・古林尚と共著

孔子の生き方に学ぶ(カセット) たんば経営セミナー ラジオたんばサービス 昭和62年8月

「唐国随想」(一)～(三) 世界日報 平成4年12月～平成5年2月

## 十、福沢研究

中国における福沢諭吉研究『史学』48巻1号 昭和52年1月

白杵図書館蔵「福沢先生遺籍」解題初稿『史学』48巻2・3号 昭和54年6月

福沢先生御両親の結婚の年月『福沢手帳』25号 昭和55年6月

蔵役人福沢百助をめぐる大坂文壇『芸文研究』40号 昭和55年9月

豊前・豊後および大坂の学問と福沢家『近代日本研究』第2巻 慶應義塾福沢研究センター 昭和63年3月

福沢百助著『呆育堂詩稿』訳注一『史学』48巻1号 昭和55年11月

福沢百助著『呆育堂詩稿』訳注二『史学』51巻1・2号 昭和55年6月

福沢百助著『呆育堂詩稿』訳注三『史学』52巻1号 昭和56年6月

福沢百助著『呆育堂詩稿』訳注四『史学』53巻2・3号 昭和58年7月

福沢百助著『呆育堂詩稿』訳注五『史学』55巻2・3号 昭和61年1月



十一、翻訳（単行本）

『水滸伝』（『デュエット版世界文学全集』）集英社 昭和44年12月

『水滸伝』（『愛蔵版世界文学全集』）集英社 昭和50年3月

『水滸伝』一（『集英社版世界文学全集』）集英社 昭和54年6月

『水滸伝』二（『集英社版世界文学全集』）集英社 昭和54年7月

（共訳本）

『曹禺篇』『日出』（『現代中国文学全集』13卷所収）河出書房 昭和29年12月

（雑誌・単行本所収）

茹志鵬「高い白楊樹」 『群像』17巻6号 昭和37年6月

「故郷」「白蛇伝」（『世界短篇文学全集』15『中国文学』所収）集英社 昭和38年6月